

報告者・モデレーター

ジェイムズ・クロフォード判事

国際司法裁判所判事。アデレード大学，シドニー大学，ケンブリッジ大学で国際法の研究教育に従事し，2015年より現職。多数の事件において国際裁判の代理人を務める。アメリカ国際法学会マンレイ・O・ハドソン章(Manley O. Hudson Medal)，Companion of Order of Australia 受賞。主著に *The Creation of States in International Law* (Clarendon Press, 1979)，*The ILC's Articles on State Responsibility: Introduction, Text and Commentaries* (Cambridge University Press, 2002)，*State Responsibility: The General Part* (Cambridge University Press, July 2013)，*Chance, Order, Change: The Course of International Law, Recueil des cours*, vol 365 (2013) (2014年，AIL-Pocketbookとして出版) など。

アンドリュー・ハレル教授

オックスフォード大学教授(国際政治)。2011年，イギリス学士院フェロー。2010年，ジョン・ホプキンス大学ソサエティ・オブ・スカラー。オックスフォード大学出版会学術協議員・財政委員会委員(同社取締役会)。2015年，国際関係学会によりスーザン・ストレンジ賞受賞。主著に *On Global Order. Power, Values and the Constitution of International Society* (Oxford University Press, 2008) (2009年 International Studies Association Prize for Best Book in the field of International Relations 受賞)，*Inequality, Globalization and World Politics* (1999) (Oxford University Press, Ngaire Woods と共著)，*Regionalism in World Politics* (Oxford University Press, 1995) (Louise Fawcett と共著) など。

ラウリ・マルクソー教授

タルトゥ大学教授(国際法)。タリンのシンクタンク「エストニア外交政策研究所」(Estonian Foreign Policy Institute) 所長。エストニア科学アカデミー (Estonian Academy of Sciences) の最年少会員，2015年に万国国際法学会の準会員。2017年より常設仲裁裁判所仲裁人。2012年より Martens Summer School on International Law 創設者・理事。2008-2016年，ヨーロッパ国際法学会理事。主著に *Illegal Annexation and State Continuity* (Martinus Nijhoff, 2003)，*Russian Approaches to International Law* (Oxford University Press, 2015) など。

李根寛教授

ソウル国立大学法科大学院教授(国際法)。法学士(ソウル国立大学)，法学修士(ジョージタウン大学)，法学博士(ケンブリッジ大学)。2004年より現職。大韓民国海軍学校，九州大学などでも研究教育に従事。主な関心分野は国際法の歴史と理論(特に東アジアにおける近代国際法の「受容」)，国家承継論(特に南北朝鮮関係)，海洋法，文化遺産の国際的

保護. 主著に“La traduction et la circulation des termes de droit international en Asie orientale, en particulier du Wanguo gongfa / Bankoku kôhō” (Ebisu-Études Japonaises, 2004), “An Enquiry into the Palimpsestic Nature of Territorial Sovereignty in East Asia - with Particular Reference to the Senkaku/Diaoyudao Question” (*Sovereignty, Statehood and State Responsibility: Essays in Honour of James Crawford*, Cambridge University Press, 2015) など.

マイケル・リースマン教授

イエール大学ロースクール教授 (国際法). 万国国際法学会会員, World Academy of Art and Science フェロー, 国際決済銀行仲裁法廷所長, Foreign Policy Association 理事. 米州人権委員会委員長, 米国国際法学会副理事長, American Journal of International Law 編集長, Policy Sciences Center 副議長などを歴任. アメリカ国際法学会マンレイ・O・ハドソン章 (Manley O. Hudson Medal), World Academy of Art and Science, Harold Dwight Lasswell Award for Communication in a Divided World などを受賞. 主権, 人権, 条約, 国際投資法分野などに多数の著作. 主著に *Systems of Control in International Adjudication and Arbitration: Breakdown and Repair* (Duke University Press, 1992), *Folded Lies: Bribery, Crusades, and Reforms* (Free Press, 1979) (『贈収賄の構造』(岩波書店, 1983年)), *The Quest for World Order and Human Dignity in the Twenty-first Century: Constitutive Process and Individual Commitment: General Course on Public International Law* (Martinus Nijhoff Publishers, 2012) など.

易平准教授

北京大学法学院准教授 (国際法). 中国国際法学会理事, 北京大学国際法・比較法雑誌編集長. 法学士 (北京大学法科学院), 法学修士・法学博士 (東京大学法学政治学研究科). 博士論文『戦争と平和の間－発足期日本国際法学における『正しい戦争』の観念とその帰結』に対して第9回アジア太平洋研究賞. 主著に *Between the War and Peace: The Contemporary Relevancy of the “Just War” Concept in the Early Years of International Legal Studies in Japan* (Torkel Opsahl Academic EPublisher, 2013), “A Swan Song, or a Phoenix Rising”, *Journal of the History of International Law*, Vol. 18, 2016, “The Distinction Between Legal and Political Disputes in International Adjudication”, *Peking University Law Journal*, Vol. 2, Issue 1, 2014 など.

川副令准教授 (佐野短期大学)

佐野短期大学准教授 (国際法). 東京大学法学部卒 (1997年). 東京大学大学院法学政治学研究科助手, 東京大学 COE プログラム「国家と市場の相互関係におけるソフトロー」特任研究員, 日本大学国際関係学部国際総合政策学科助教を経て, 2016年4月より現

職. 著書に「立作太郎の平和構想—『満州国』承認問題と宗主権適用論—」『平和研究』第41号(2013年), 「J.L.ブライアリの戦時国際法論—その歴史的位相と思想的立脚点—」中川淳司・寺谷広司編『大沼先生記念論文集 国際法学の地平—歴史, 理論, 実証—』(東信堂, 2008年)など.

齋藤民徒教授(金城学院大学)

金城学院大学国際情報学部教授(国際法). 東京大学法学部卒業. 司法修習終了(第50期). 東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学. 東京大学大学院法学政治学研究科拠点形成特任研究員などを経て現職. 近年の論文に「『書きとめられない法』のプロセスとプラクティス—リフレクティブな国際法学のための基礎概念」『多元的世界における「他者」』(関西大学CMS最終報告書, 2013年), 「国際法の生成と創設—国際法資料から国際法規範へ」長谷部恭男編『法の生成/創設』(岩波講座『現代法の動態』第1巻, 岩波書店, 2014年), 「国際法における法源論の変容—そのプロブレマティーク」法律時報87巻9号(2015年), 「ヘイトスピーチ対策をめぐる国内法の動向と国際法—人権条約の効果的実現への課題と示唆」論究ジュリスト19号(2016年)など.

篠田英朗教授

東京外国語大学総合国際学研究院教授(国際政治). 学生時代より難民救援活動に従事し, クルド難民(イラン), ソマリア難民(ジブチ)緊急援助の短期ボランティア, 国連カンボジア暫定統治機構(UNTAC)で投票所責任者として勤務. 国際関係学 Ph.D. (ロンドン大学(LSE)). ロンドン大学, キール大学非常勤講師の後, 広島大学平和科学研究センター助手, 助教授. ケンブリッジ大学ローターバクト国際法研究センター・コロンビア大学人権研究センター客員研究員などを歴任. 大佛次郎論壇賞(2003年), サントリー学芸賞(2012年)受賞. 主たる研究分野は紛争後地域における平和構築活動. 主著に『集团的自衛権の思想史』(風行社, 2016年), 主著に『「国家主権」という思想: 国際立憲主義への軌跡』(勁草書房, 2012年), 『平和構築と法の支配: 国際平和活動の理論的・機能的分析』(創文社, 2003年)(韓国語訳版, 2008年), *Re-examining Sovereignty: From Classical Theory to the Global Age* (Macmillan, 2000)(中国語訳版, 2004年)など.

マティアス・ツアハマン教授

ベルリン自由大学教授(近代日本文化と歴史研究). ドイツ法曹資格(2002年第2次州試験), ハイデルベルク大学(日本学専攻, 2006年博士号取得), ミュンヘン大学(助手論文, 2010年)で研究. 2011年から2016年までエジンバラ大学教授. 主な研究分野は東アジアにおける国際関係史, 日本における理論・文化史, 東アジアの法史. 主著に *China and Japan in the Late Meiji Period: China Policy and the Japanese Discourse on National Identity, 1895-1904* (Routledge, 2009), *Völkerrechtsdenken und Außenpolitik in Japan,*

1919-1960 (Nomos, 2013)など.

長尾龍一教授

東京大学名誉教授（法哲学）. 国際日本文化研究所研究員, 早稲田大学招聘研究員（国際言語文化研究所）, 日本大学法学部大学院非常勤講師（法哲学・法思想史）. 1961年, 東京大学法学部卒業. 1980年, 東京大学教養学部教授. 1998年から2009年日本大学法学部教授. サントリー学芸賞（1982年）受賞. 主な研究領域は, 政治思想史・法思想史（ホッブズ, ケルゼン, シュミット, 日本憲法学史など）. 主著に『法哲学入門』（日本評論社, 1982年; 新版・講談社, 2007年）, 『ケルゼン研究』（信山社出版, 1999年）, 『ケルゼン研究II』（信山社出版, 2005年）, 『ケルゼン研究III』（慈学社, 2013年）など.

最上敏樹教授（モデレーター）

早稲田大学教授（国際法・国際機構論）. 東京大学法学部卒業, 同大学院法学政治学研究科博士課程修了（法学博士）. 国際基督教大学で研究教育に従事し, 1990年より2011年, 教授. 主著に『国際機構論講義』（岩波書店, 2016年）, 『人道的介入』（岩波新書, 2001年）など.

寺谷広司教授（モデレーター）

東京大学大学院法学政治学研究科教授（国際法）. 1994年東京大学法学部卒, 同助手, 講師, 北海道大学法学部助教授を経て, 2004年東京大学大学院法学政治学研究科助教授（准教授）. 2011年より現職. 主著に『国際人権の逸脱不可能性』（有斐閣, 2003年, 第37回安達峰一郎賞）, 『国際法学の地平』（東信堂, 2008年, 中川淳司と共編著）など.